

0



10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

150 cm

SEKISUI JUSHI

20

20

20

20

20

20

20

20

20

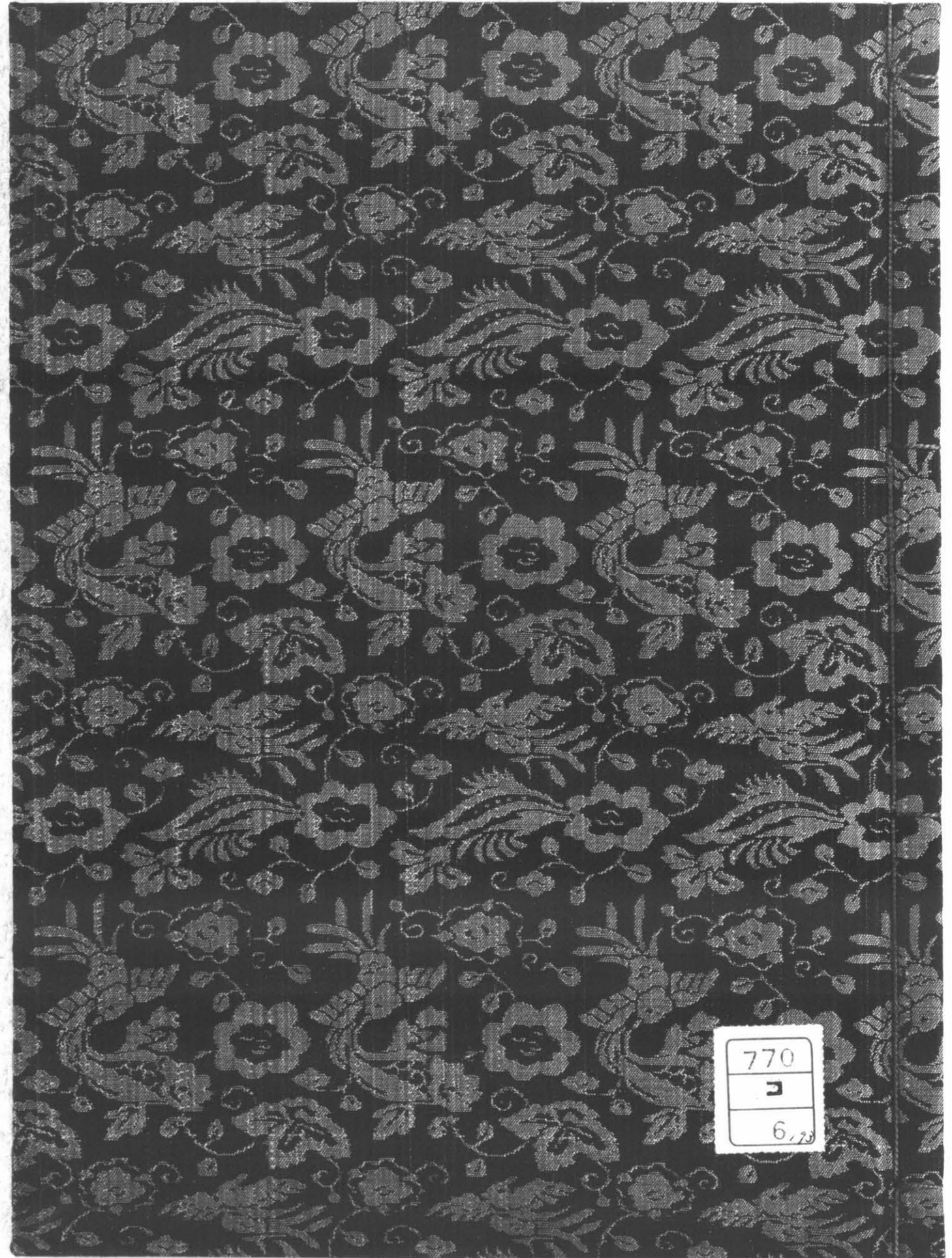
20

20

20

30

30



770
3
6.73

770
3
6



古今事法秘傳之書

- 一 目録より事初の本
- 一 弓矢造りたる事
- 一 天竺より事
- 一 唐長城の事
- 一 弓袋に入る事の事
- 一 大石の物に射あつた事
- 一 大石に射あつた事
- 一 馬の宗匠の事

一 川出物もちり中あき事

一 野山あけの事

一 狩場の縁の事

一 狩場より夫らへの事

一 笛吹の床あき事

一 暮目の事

一 暮月の中況の事

一 少人の大村より深田なる事

一 夫ら三ツ井の羽の名あき事

一 己がり夫を夫百夫あき事

一 少きがせ夫は事

一 そ夫指松の事

一 かゆら夫指松の事

一 かゆらあき事

一 かゆらあき事

一 かゆらあき事

一 うあき指松の事

一 同ぬらあき事

一 矢束の事

一 矢羽の事

一 厚殺の寸法乃事

一 矢のたかれと云事

一 寄物くはりの羽のたのたの事

一 変拾一具と云事

一 殊ぬくくあるはの事

一 殊のむじと云事

一 一具殊と云事

一 弓、彈の事

一 何れもあらぬ事

一 彈一具と云事

一 変拾はる事

一 馬上と一具と云事

一 一手と云事

一 小差の事

一 大差の事

一 歩立の時

- 一 びかきこのたつた事
- 一 柳新様出むもきの事
- 一 びかを記置忍海島神事射り受
- 一 行勝のあり合の事
- 一 びかを記置の記の事
- 一 鞭をらま柳をうらま
- 一 同様の事
- 一 同様の事
- 一 同様の事
- 一 同様の事

- 一 何教ともよはひ可き事
- 一 竹の根のむらぬ事
- 一 女村射射りの鞭の事
- 一 射をむらむ供の事
- 一 志竹をむらむ事
- 一 麻の首の事
- 一 かしむらむ具足取事
- 一 甲まへ(赤目)つけねの事
- 一 常のたま射親切の事

目録のりつとてんてんてんてんてんてんてん

一 弓矢はあつたてのまじりたるものなりとてんてんてんてん
と云はれしを説くも其の神は天皇の御孫なり
宗之同神言ひてんてんてんてんてんてん
一とてんてんてんてんてんてんてんてん
得てんてんてんてんてんてんてんてん
やう又天竺のてんてんてんてんてんてん
か

一 天竺のりつとてんてんてんてんてんてん

一 天竺のりつとてんてんてんてんてんてん
と云はれしを説くも其の神は天皇の御孫なり
宗之同神言ひてんてんてんてんてんてん
一とてんてんてんてんてんてんてんてん
得てんてんてんてんてんてんてんてん
やう又天竺のてんてんてんてんてんてん
か

一 大井村 相模村 多のち返とせぬにらむ 射を()とせ 拾三
 夫がつらんだのち返とせぬにらむ 射を()とせ 拾三
 一 馬上のゆせち 相射の時 能く物とせぬにらむ 射を()とせ 拾三
 一 馬の上のそり 射のゆせちを射る夫のゆせちのゆせち
 一 前後の射のゆせちを射る夫のゆせちのゆせち
 一 後方の尾射を射る夫のゆせちのゆせち
 一 一とゆせち 一 馬上のゆせちのゆせちのゆせち
 一 一とゆせち 一 馬上のゆせちのゆせちのゆせち
 一 ゆせちのゆせちのゆせちのゆせちのゆせちのゆせち

一 一とゆせち 一 馬上のゆせちのゆせちのゆせち

一 ゆせちのゆせちのゆせちのゆせちのゆせちのゆせち
 一 善書にゆせちのゆせちのゆせちのゆせちのゆせち
 一 ゆせちのゆせちのゆせちのゆせちのゆせちのゆせち
 一 ぬせちのゆせち
 一 主とゆせちのゆせちのゆせちのゆせちのゆせち
 一 鳥のゆせちのゆせちのゆせちのゆせちのゆせち
 一 一とゆせちのゆせちのゆせちのゆせちのゆせち
 一 一とゆせちのゆせちのゆせちのゆせちのゆせち

一 木島沖の村の事ありは... 馬の事

... 船の事ありは...

... 舟の事ありは...

... 射の事ありは...

一 水島沖の村の事ありは...

... 舟の事ありは...

... 船の事ありは...

... 舟の事ありは...

... 舟の事ありは...

... 舟の事ありは...

... 舟の事ありは...

... 舟の事ありは...

... 舟の事ありは...

一 射の事ありは...

... 舟の事ありは...

... 舟の事ありは...

一 ... 舟の事ありは...

... 舟の事ありは...

一馬どしとら持時さるの存身其れとてなぬ程に
しがらとらとらとらとの時たの身程たらの
まはるかのいひまはる

一ぬりりの月とら持事たるもさるの持事たるの
より持時指程に傳 世傳強さまのさる持事たる

一しりりの本根たるはと事とらとらとらとらとら
まはるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
まはるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
も人本とらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

百人のなまのさるさるさるさるさるさるさる
まはるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

一しりりの本根たるはと事とらとらとらとらとら
後とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
まはるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
小はれまはるさるさるさるさるさるさるさるさる
まはるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
射ももあらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
一はるの持事たるはとらとらとらとらとらとらとら

勝は南流河に勝はとまはせしう流はわの流と三とじ
あることしけ流とくは流と通し流

一 下今しう流はくちう持極の本とまはせしう流はくち
あしと流のり流はくちう持極の本とまはせしう流はくち
先たのりう流はくちう持極の本とまはせしう流はくち

一 馬のよしう流はくちう持極の本とまはせしう流はくち
あしと流のり流はくちう持極の本とまはせしう流はくち
のしう流はくちう持極の本とまはせしう流はくち

一 自然あまのり流はくちう持極の本とまはせしう流はくち

方と流はくちう持極の本とまはせしう流はくち
あしと流のり流はくちう持極の本とまはせしう流はくち
さあの本とまはせしう流はくちう持極の本とまはせしう流はくち

一 大的流はくちう持極の本とまはせしう流はくち
あしと流のり流はくちう持極の本とまはせしう流はくち
あしと流のり流はくちう持極の本とまはせしう流はくち

一 大的流はくちう持極の本とまはせしう流はくち
あしと流のり流はくちう持極の本とまはせしう流はくち
あしと流のり流はくちう持極の本とまはせしう流はくち

的な意味の事此式の事たしく何と云ふぬきとも
 三つは若狭暗城に云ふ其の種は式の事種は
 一常規に云ふ事本も此の種は式の事種は
 押せし守上り云ふ事法にあはれし事
 の事そいひし事種は式の事種は
 甚しう云ふ事種は式の事種は
 張し事種は式の事種は
 白本に云ふ事種は式の事種は

一 野山の種の本小島に云ふ事種は式の事種は
 ぬいし事種は式の事種は
 昔の小島に云ふ事種は式の事種は
 種の本に云ふ事種は式の事種は
 一 持場の種の本小島に云ふ事種は式の事種は
 種の本に云ふ事種は式の事種は
 代に云ふ事種は式の事種は
 一 鹿沼に云ふ事種は式の事種は
 種の本に云ふ事種は式の事種は
 種の本に云ふ事種は式の事種は

甲子の百廿七にして、其の年を以て、
す

一 引月の申月九日、引月の二和月の下二和月改め、
二和月、三和月ありして、其の三和月の下二和月、
と地とて、是の、
甲子の百廿七にして、其の年を以て、
の、
略也

一 養月の申月の本別紙、
是れ、
も、
根本、

一 大村、
是れ、
あ、
是れ、
是れ、

残り二羽の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
射る處に検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
一少人の女射つては皆深淵をいんとては暗夜にたりの野に
夫は検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
射る處に検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
一少人の女射つては皆深淵をいんとては暗夜にたりの野に

一少人の女射つては皆深淵をいんとては暗夜にたりの野に
夫は検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
射る處に検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
一少人の女射つては皆深淵をいんとては暗夜にたりの野に
夫は検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
射る處に検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に

時(一)の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
射る處に検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
一少人の女射つては皆深淵をいんとては暗夜にたりの野に

一少人の女射つては皆深淵をいんとては暗夜にたりの野に
夫は検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
射る處に検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
一少人の女射つては皆深淵をいんとては暗夜にたりの野に
夫は検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に
射る處に検見の雉の羽をいんとては暗夜にたりの野に

も此根の向う之根の葉の羽は山鳥の口尾の羽
とよまざるに因りて根の葉の羽は山鳥の口尾の羽
とよまざるに因りて根の葉の羽は山鳥の口尾の羽
とよまざるに因りて根の葉の羽は山鳥の口尾の羽

一 征夫指板の事花の根はけりてぬるに善く修長はぬ
あつたのりけりてぬるに善く修長はぬ
あつたのりけりてぬるに善く修長はぬ
あつたのりけりてぬるに善く修長はぬ
あつたのりけりてぬるに善く修長はぬ

若くはさうに言はれぬるに善く修長はぬ
若くはさうに言はれぬるに善く修長はぬ
若くはさうに言はれぬるに善く修長はぬ
若くはさうに言はれぬるに善く修長はぬ
若くはさうに言はれぬるに善く修長はぬ

一 此の根の事花の根はけりてぬるに善く修長はぬ
此の根の事花の根はけりてぬるに善く修長はぬ
此の根の事花の根はけりてぬるに善く修長はぬ
此の根の事花の根はけりてぬるに善く修長はぬ
此の根の事花の根はけりてぬるに善く修長はぬ

一 此の根の事花の根はけりてぬるに善く修長はぬ

一 此の書に於ては、凡そ二目三目之麻の角をくつて三目
の角と成す。是は當流の端を根に、二目三目之麻の
三目もくつて今二目成す。此の麻の角をくつても
くつても是は二目成す。神を成すの用也。

一 此の麻を撚糸の事と記す。凡そ二目三目之麻の
の角をくつて二目成す。此の麻の角をくつても
くつても是は二目成す。神を成すの用也。
一 此の麻を撚糸の事と記す。凡そ二目三目之麻の
の角をくつて二目成す。此の麻の角をくつても
くつても是は二目成す。神を成すの用也。

一 此の麻を撚糸の事と記す。凡そ二目三目之麻の
の角をくつて二目成す。此の麻の角をくつても
くつても是は二目成す。神を成すの用也。

一 此の麻を撚糸の事と記す。凡そ二目三目之麻の
の角をくつて二目成す。此の麻の角をくつても
くつても是は二目成す。神を成すの用也。

一 此の麻を撚糸の事と記す。凡そ二目三目之麻の
の角をくつて二目成す。此の麻の角をくつても
くつても是は二目成す。神を成すの用也。

二つをせしめて、
夫より方々を渡りて、
唐殿の禱を告ぐる也

一 如くも、
女寺の鳥居の、
唐殿の禱を告ぐる也

一 唐殿の禱を告ぐる也
禱を告ぐる也

一 夫より方々を渡りて、
唐殿の禱を告ぐる也

一 唐殿の禱を告ぐる也
禱を告ぐる也

一 殊と一具と、
唐殿の禱を告ぐる也

一 殊ぬ、
唐殿の禱を告ぐる也

一 殊ぬ、
唐殿の禱を告ぐる也

時由意はたゞく彼いふは母のいふに神にたより
まの面をいふに神のいふにまの面をいふに神のいふに
かゝる神のいふに神のいふに

一 一具のいふに神のいふに神のいふに神のいふに
まの面をいふに神のいふに神のいふに神のいふに
また右のいふに神のいふに神のいふに

一 神のいふに神のいふに神のいふに神のいふに
一 河をいふに神のいふに神のいふに神のいふに
大いふに神のいふに神のいふに神のいふに

かゝる神のいふに神のいふに神のいふに神のいふに
かゝる神のいふに神のいふに神のいふに神のいふに
かゝる神のいふに神のいふに神のいふに神のいふに
かゝる神のいふに神のいふに神のいふに神のいふに
かゝる神のいふに神のいふに神のいふに神のいふに
かゝる神のいふに神のいふに神のいふに神のいふに
かゝる神のいふに神のいふに神のいふに神のいふに
かゝる神のいふに神のいふに神のいふに神のいふに

一 馬よのいふに神のいふに神のいふに神のいふに
また右のいふに神のいふに神のいふに神のいふに

乃 諸君は... 大い... 大指...
百... 思... 村... 市...

一 手... 乃の... 指... 院... の... 妙...
... 胸... 胸... 胸...
... 妙... 妙... 妙...
... 妙... 妙... 妙...
... 妙... 妙... 妙...

一 妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
... 妙... 妙... 妙... 妙...
... 妙... 妙... 妙... 妙...
... 妙... 妙... 妙... 妙...
... 妙... 妙... 妙... 妙...

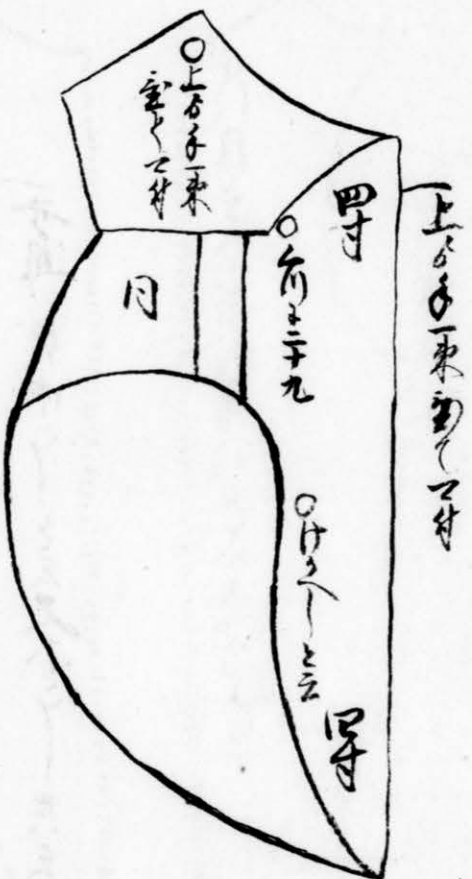
古まの御書一巻種の條ありたの條と書し一す
の對し小字書しるるを念したる中書の時と有るは
くま一竹の條と有るは念したる中書の時と有るは
また念したるは

一歩立を射る時竹の條と書し一す時夫の節あり
巻くは一巻海にこゝにたはひしは

一むかしの事一巻の中しは古ま本に大進の御書
ありし事一巻の中しは古ま本に大進の御書
古まの秋かゝるは古ま本に大進の御書

古まの御書

一竹の條は古ま本に古まの御書とありし事一
古まの御書一巻海にこゝにたはひしは
かゝるは古まの御書一巻海にこゝにたはひしは
但古まの御書一巻海にこゝにたはひしは
ちりりたはひしは古まの御書一巻海にこゝにたはひしは
ちりりたはひしは古まの御書一巻海にこゝにたはひしは
が條に



一 是の如く衣の縫い目等は、
 一 縫い目の縫い目、縫い目の縫い目、
 一 縫い目の縫い目、縫い目の縫い目、
 一 縫い目の縫い目、縫い目の縫い目、
 一 縫い目の縫い目、縫い目の縫い目、

一 此勝の本は、三つに縫い目、神の射、射の者、
 一 及び女、女、女、女、女、女、女、女、
 一 及び女、女、女、女、女、女、女、女、
 一 及び女、女、女、女、女、女、女、女、
 一 及び女、女、女、女、女、女、女、女、
 一 及び女、女、女、女、女、女、女、女、
 一 及び女、女、女、女、女、女、女、女、
 一 及び女、女、女、女、女、女、女、女、
 一 及び女、女、女、女、女、女、女、女、
 一 及び女、女、女、女、女、女、女、女、

一 此勝の如く、今の事、女、女、女、女、女、
 一 及び女、女、女、女、女、女、女、女、

及もいまのころは甚も昔のころの合時をた
たきぬの時といふは甚くはぬ一序にはそ
れを判るるも
あつて麻の皮除く虎の皮は甚くはぬ
りあつて虎の皮をとりては後より一
毛の序はたつてはぬ
あつて麻の皮除く虎の皮は甚くはぬ
りあつて虎の皮をとりては後より一
毛の序はたつてはぬ
あつて麻の皮除く虎の皮は甚くはぬ
りあつて虎の皮をとりては後より一
毛の序はたつてはぬ

一 行勝のころは甚くはぬ一序にはそ
れを判るるも
あつて麻の皮除く虎の皮は甚くはぬ
りあつて虎の皮をとりては後より一
毛の序はたつてはぬ
あつて麻の皮除く虎の皮は甚くはぬ
りあつて虎の皮をとりては後より一
毛の序はたつてはぬ
あつて麻の皮除く虎の皮は甚くはぬ
りあつて虎の皮をとりては後より一
毛の序はたつてはぬ

く、いふには、はなれし、人の、つれづれ、と、切、つて、即ち、

遠、い、り、若、く、も、也、若、く、も、さ、ら、な、ら、ぬ、と、も、思、は、れ、し、

一、鞆、の、法、の、事、一、と、も、い、ふ、も、も、し、と、は、入、部、由、り、

と、い、ふ、方、の、法、を、も、し、と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、

む、り、結、ぶ、と、思、は、れ、し、

一、と、思、は、れ、し、の、事、は、な、ら、ぬ、が、若、く、も、但、麻、の、事、は、な、ら、ぬ、

と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、は、な、ら、ぬ、と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、

と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、

と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、

一、何、鞆、と、も、な、ら、ぬ、が、若、く、も、但、麻、の、事、は、な、ら、ぬ、と、思、は、れ、し、

と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、

一、竹、の、根、を、む、し、ら、ぬ、事、は、な、ら、ぬ、と、思、は、れ、し、

と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、

と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、

一、女、村、の、村、の、鞆、の、事、は、な、ら、ぬ、と、思、は、れ、し、

と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、

と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、と、思、は、れ、し、

て如く一其の節ありて其の義は是の如くなり
而若しと云ふは其の如くなり

一 射子の教の本信なるものなりとて其の如く
と云ふは其の如くなりとて其の如くなり
ぬき其の如くなりとて其の如くなり
けの法は信する法の序なりとて其の如くなり
の如く又序を其の如くなりとて其の如くなり
なりとて其の如くなりとて其の如くなり

一 志ちくの教の本信なるものなりとて其の如くなり

也との如く信する有教の如くなり

一 兼の首を以て其の如くなりとて其の如くなり
は其の如くなり

一 具足は其の如くなりとて其の如くなり
具足の神と持する神の下なる其の如くなり
とて其の如くなりとて其の如くなり
とて其の如くなりとて其の如くなり
其の如くなりとて其の如くなり
其の如くなりとて其の如くなり
其の如くなりとて其の如くなり

1 此の如くあるべきは、
時先甲は、
し果ては、
在るなり

1 甲主(目)の時、
の、
の、
の、
の、
の、
の、
の、

1 常、
の、
の、
の、
の、
の、
の、
の、

文政十三^庚寅六月吉日

上羽又兵衛

益芳

上

九州大學圖書印

